CHECKED 09 NOV 2018

いかにして問題をとくか

G.ポリア著 柿内賢信訳 978-4-621-04593-0
B5判 本体1,500円

なぜ売れ続けているのかをまじめに考察、

○この本がうまれた背景、

長岡亮介『数学の二つの心』98〜99ページによると
当時のアメリカは「公式にしたがって典型的な問題をとく」という
古くさい勉強法が主流だったようです。

○ポリアがそんなアメリカに発見的研究を持ちこむ

はしがきを読むと、"学生に自分自身でものを考える意欲と方法とを
与えることができる"ように、ポリアがこの本を上梓したことが分かります。
また"発見的(heuristic)"というキーワードが書かれていることも見逃せません。
もう少し踏みこんでみます。

○ヒューリスティック(heuristic)とは

コンピュータ科学や心理学などの分野でよく使われることばで、
答えや意思決定を導くプロセス(コンピューター科学ではそのための
プログラミングの方法を)です。
本書では"発見学""発見的"ということばで訳されています。

○だから数学だけでなく多くの分野の学生・社会人に!!

・文章はよみづらいかもしれませんが、シンプルな記述で
誰にとっても読みかえすたびに味わいが出る本なのです!!

— 注文書 太郎出版発行、返送付
FAX:03-3512-3270

いかにして問題をとくか
978-4-621-04593-0
本体価格1,500円

冊

〒
住所
電話番号